

中越沖地震災害時の福祉事務所の対応

柏崎市社会福祉事務所長
近藤 清信

中越沖地震を体験して

平成19年7月16日午前10:13発生

がんばろう！輝く柏崎



中越沖地震からの教訓

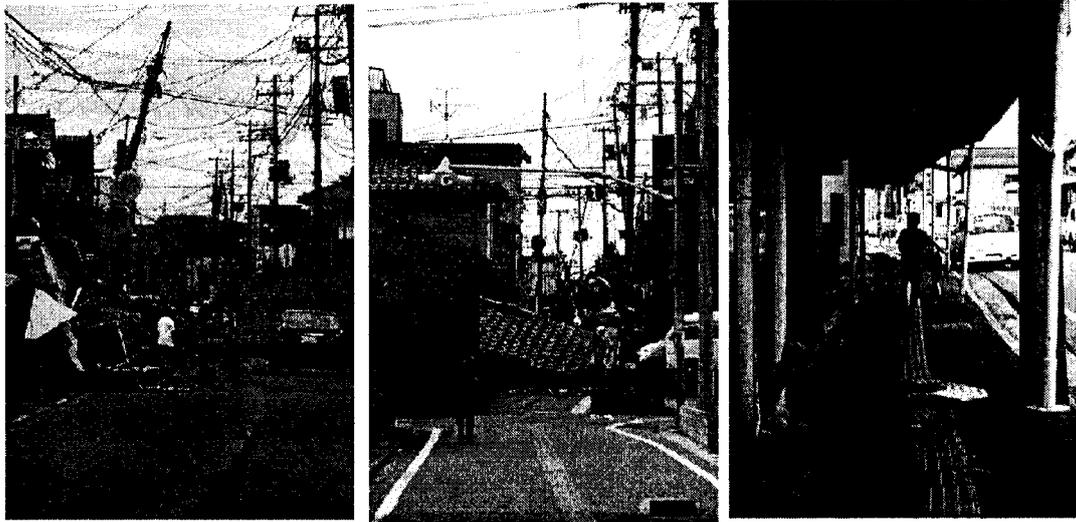
- ◆中越・中越沖地震を体験した者として何をなすべきか？
- ◆この教訓をいかに伝えるか。
- ◆だれと、どのように共有するのか？
- ◆自助・共助・公助を考える

平成20年4月25日

柏崎市社会福祉事務所

所長 近藤 清信

【市街地被害】





中越沖地震による柏崎市の被害状況

- 死者 14名 重軽傷者 1,664名
- 住宅被害 (住家)
 - 全壊 3,427 (1,110)
 - 大規模半壊 953 (675)
 - 半壊 6,231 (3,865)
 - 一部損壊 41,637 (22,517)
- ライフライン
 - 水道 全市40,260戸給水停止 8月4日復旧
 - ガス 全市30,978戸供給停止 8月26日復旧

避難所及び仮設住宅設置状況

- 避難所開設状況
 - 82箇所 11,410人(ピーク時)
 - 8月31日に全て閉鎖
 - 9月 1日から一時待機所を設置(民宿等)
- 仮設住宅設置状況
 - 39地区 1,007戸設置

要援護者台帳作成経過

- 平成16年7月16日 水害
床上浸水 14戸 床下浸水 160戸
避難所 32箇所 577人

- 平成16年10月23日 中越大震災
避難所 84箇所 6,484人

- 平成17年6月28日 水害
床上浸水 167戸 床下浸水 367戸
避難所 32箇所 727人

- 災害担当部署及び福祉保健部で協議
- 平成18年度より福祉総合システム稼動
防災担当課へは紙ベースで提出
- 平成18年度末に要援護者定義決定

- 自主防災組織設置の推進(防災課)
- 福祉避難所検討会開催(19・7・19予定)

- * 水害・原子力防災対応を想定していた。

高齢者の安否確認と支援

■ 安否確認

- 介護保険施設入所・サービス利用者の安否確認
(7/16～21)
施設及びケアマネに利用者安否確認を指示
- 在宅要支援者の安否確認 (7/16～21)
市職員のほか 関係機関・民生委員等の協力を得て
確認 <資料1>

■ 支援

- 施設での緊急入所(7/16～)
地震発生時にデイサービスやショートステイを利用していた方がそのまま緊急入所となったほか、避難してきた方の緊急入所の受け入れ
(緊急ショートの状況)?
- 福祉避難所の開設(7/16～8/31)
7月19日から順次6箇所開設。8月31日までの44日間。
延べ1,368人が利用。
- 世帯巡回(健康相談)(7/23～)
県福祉保健部が、在宅被災者の健康状態とケアの必要性の把握を行うため、被災地域の世帯を訪問。
- 高齢者総合相談窓口の設置(7/28～8/31)
県が窓口設置。相談総件数は211件、うち介護・福祉が83件、生活環境62件など。8/1からは市の被災者総合相談所も開設された。

在宅要援護者(高齢者)の安否確認

■ 合計9,017人の安否を確認

- ① 単身要介護認定者 517世帯 517人
- ② 全員要介護認定高齢者のみ世帯
72世帯 137人
- ③ 単身一般高齢者 2,155世帯 2,155人
- ④ 高齢者のみ世帯で②以外
3,107世帯 6,203人
- ⑤ 高齢者と児童のみ世帯 3世帯 5人

■ 確認方法

行政職員やケアマネ等による電話、訪問
 民生委員が訪問
 緊急通報装置設置業者による確認

福祉避難所の開設状況(1)

■ 開設箇所

No	開設場所	規模	開設期間	運営主体
1	柏崎小学校コミュニティデイホームはまなす	30人	7/19~8/31	(社)新潟県老人福祉施設協議会
2	特別養護老人ホームいこいの里	10人	7/19~7/31	(福) 泚山会
3	長浜デイサービスセンターふれあい	10人	7/20~7/31	㈱ツクイ
4	元気館障害者デイサービスセンター	10人	7/20~8/5	(社)新潟県老人福祉施設協議会
5	県立柏崎高等学校セミナーハウス (米峰会館)	20人	7/21~8/31	新潟県介護老人保健施設協会
6	特別養護老人ホームくじらなみ	10人	7/29~8/17	(福) 泚山会

福祉避難所の開設状況(2)

- 利用状況(6箇所合計)
 - ・施設規模 90人
 - ・日最大避難者数 56人(7/28及び7/29)
 - ・開設日数 44日(7/19~8/31)
 - ・延べ避難者数 1,368人
 - ・実避難者数 105人
 - ・利用者の内訳
高齢者86人、障害者7人、乳幼児1人、
児童2人、その他9人

要援護者(障害者)の状況

- 身体障害者 524人(100人)
身体障害者手帳第1種所持者
 - 知的障害者 238人
療育手帳A所持者
 - 精神障害者 321人(105人)
精神障害者保健福祉手帳1・2級所持者
- * ()は単身世帯数・課題もあり

中越沖地震での初期対応

- 全市民が要援護者状態
震度5以上の場合全職員が登庁
- 登庁職員
被害状況調査実施
被害状況の把握
避難所設営(各避難所担当が事前に決まっている)
支援物資の対応
派遣支援員(自衛隊・自治体・国等)対応

要援護者安否確認は行政
では現実的に対応不可能

- 電話が不通(各施設も含め…)
- 被災者の避難所への移動
- 各担当職員の本部・避難所への動員
- **一次避難は地域(自主防災組織)が原則**

一方で…

- 7月26日未明の大雨による対応
土砂災害警戒情報が発令された地域の
要援護者の対応は可能であった。

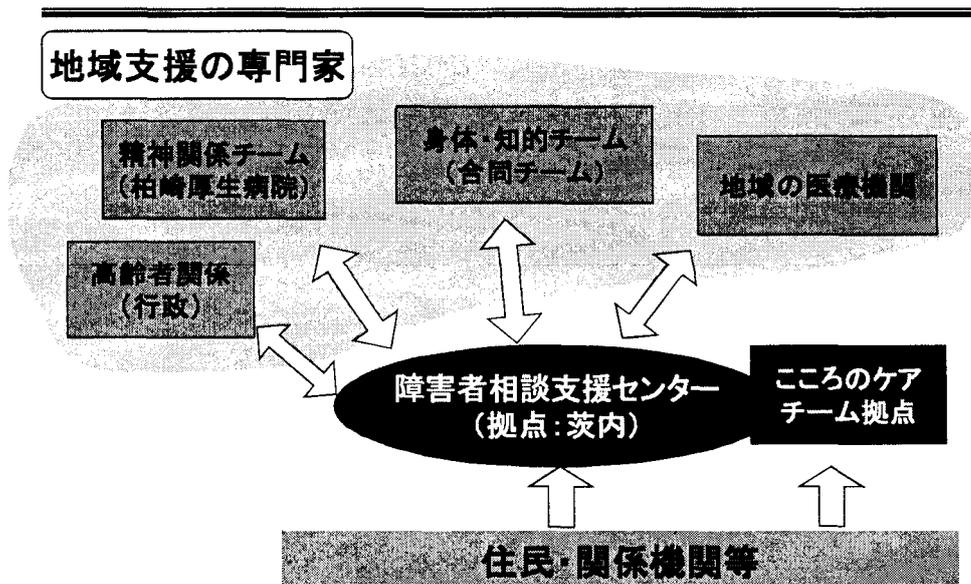
事業者等関係機関との連携強化

- 障害者福祉制度の変革
措置制度→支援費制度→障害者自立支援法
制度の改革により、市の情報の質が低下した
- 各事業所の対応
各種サービス事業を利用している障害者に対し、
事業者からの安否確認が適切・迅速に実施され
た。
児童についても、各学校において安否確認が実
施され、教育委員会は把握していた。

障害者相談支援センター設置

- 「茨内地域生活支援センター」を拠点とし、同セン
ター及び「障がい児(者)生活支援センターふく
し・ぱーとなー」に県内相談支援事業者等の協力
を得て活動を開始する(7月18日～9月30日)
* 派遣相談員延べ 275人
- 「ふくし・ぱーとなー」は、市福祉課内に拠点設置
行政の持っている各種情報(民生委員・災害・各
種支援情報等)の提供と共有
- 「茨内地域生活支援センター」には、「こころのケ
アチーム」が併設され、一体的な支援を実施

支援体制



障害者相談支援センター活動内容

- 自宅及び避難所への訪問活動
- 電話による安否確認・状況把握

安否確認
7月23日終了



- 各種情報提供
- 関係機関との連絡調整
- ニーズ把握
- カウンセリング・・・等

7月18日～
一次スクリーニング

↓

7月23日～
二次スクリーニング

↓

個別支援活動

ニーズ把握により実施した事業

- ・重度障害者への入浴サービス(元気館)7月23日～8月17日の間実施

⇒ 仮設入浴などの利用が困難な障害者を対象に、自衛隊から元気館の特殊入浴風呂に給湯してもらい実施
利用者 延べ266人

- ・在宅障害児童の日中支援サービス(さざなみ学園)8月6日～31日の間実施

⇒ 学校の夏期休暇と重なったこともあり、被災世帯の負担軽減を目的に日中支援(介助)を実施
利用者 実利用者数6人 延べ30人日

その他 実施した主な事業

- 聴覚障害者への支援(新潟県ほか)

7月20日～7月29日まで実施
手話通訳者・奉仕員等による自宅や避難所訪問により状況把握。(県の手話通訳者派遣、(社)県聴覚障害者協会の訪問活動及び市手話サークル等連絡協議会の手話奉仕員派遣)
訪問人数 延べ151人

- 視覚障害者への支援(市内の点訳、音訳奉仕会)

7月30日、8月11、20日発行の市臨時広報の点訳・音訳版を作成

各施設の対応

- 入所施設において緊急シヨートの実施及び避難の受け入れ
- 県内外福祉施設職員の動員を受ける
- 養護学校での一時受け入れ
- 通所施設での障害児者受入の開始

今後各施設へのアンケート実施の検討

医療救護活動について

(1)DMAT(災害派遣医療チーム)の活動

- 災害発生から概ね48時間以内の活動
- 専門的トレーニングを受けた救命治療を目的とするチーム
- 40病院から42チームが派遣される
県内5病院・5チーム 県外35病院・37チーム
- 拠点病院でのトリアージ・他病院への搬送・崩壊現場や避難所での医療活動

(2) 医療救護班の活動

- 被災地における医療救護班数
活動延べ班数 380班 派遣病院・団体数 70病院等
- 活動期間
7月16日～8月16日 32日間
- 活動内容
避難所での初期救急医療
救護所での診療活動
避難所での日中及び夕刻の巡回診療活動等
- 診療実績
延べ 7,677人

(3) その他

県外派遣保健師延べ3,547人が8月31日まで活動
派遣自治体数 80自治体

今後の課題

- 「要援護者名簿」とは何なのか？
- 誰が主たる支援者なのか・・・
- 主たる支援者とのネットワークは・・・
- 行政・事業者・学校等情報共有は可能か
- 各関係機関の連携の必要性

ご清聴ありがとうございました

中越沖地震での多くの支援に感謝します。

復興に歩みだした柏崎に遊びにきてください。

